

㈱京都西川営業統括本部取締役部長	小山田修二 様
山甚物産㈱リビング本部部長	丸山 敦司 様
田村駒㈱第2事業部第3部課長	松田 巧 様
㈱大津コーポレーション商品部長代理	桑畑 康之 様
日本羽毛製品協同組合 専務理事	山本 正雄 様
西川産業㈱品質管理室シニア M (RFID メンバー)	根本 宏幸 様
東レ㈱GO 事業部主幹	堀野 哲生 様 (*欠席)
東レインターナショナル㈱電子情報材料部主任	瀬尾 尚也 様 (*欠席)
西川産業㈱システム企画部課長	山本 重次郎様
㈱京都西川経営業務推進室マネージャー	福永 博樹 様 (*欠席)
田村駒㈱第2事業部第4部長	高松 秀明 様
㈱繊維情報システムセンター社長	金谷 範之 様
JBA: (一社) 日本寝具寝装品協会専務理事	奥谷 孝良 (*欠席) 中村 富夫

JBA 第4期：第十回 需要創出・啓発委員会 議事録

1. 開催日時 平成30年1月23日(火) 13:30~16:00
2. 開催場所 (一社) 日本寝具寝装品協会 日本橋小舟町事務所内
東京都中央区日本橋小舟町7-2 小舟町243ビル7F ☎ 03-6661-0213
3. 議題(1) 日本環境設計㈱リサイクル事業説明
 - (2) RFID タグ実証活動の具体的検討について
 - (3) J∞QUALITY タオル・まくら商品認証基準について
 - (4) その他

■議事録 (敬称略)

議題(1) *巻末 朝日新聞1月24日記事掲載

小山田委員長：日本環境設計㈱野口 SM に、ロマンス小杉も参加のリサイクル事業の概要説明をお願いします。個別企業でなく JBA として取組む可能性を検討願いたい。

野口 SM : 岩元会長がクラレユニフォーム営業から創業し、工場は北九州と今治市大和染工㈱内の2ヶ所稼働がある。北九州工場は金属溶解し分離する世界唯一工程を持ち、ドコモ携帯電話の回収、オリンピックメダル製作作業も実施している。現在、無印良品、H&M、パタゴニア、NIKE 等国内約3000店舗でリサイクル事業回収を展開している。

2017年4月キャンペーン大丸松坂屋(百)で衣料、バッグ、寝具類回収で参画企業ロマンス小杉の協力があつた。キャンペーン総量70,000kg、231,000枚。10,000円以上の買物使用可能なECO/OFF1,000円券進呈した。

リサイクル回収総量の内、寝具類は3,000kgでロマンス小杉運賃持ちで北

九州工場に送ってもらった。

廃棄物処理法では、地方自治体で一般か産業廃棄物どちらなのかの見解が分かれ作業困難であるので、有価物扱いとして 5 円/kg 購入、運賃元払いで請け負っている。よって、北九州工場は PE 製造認可工場であり、廃棄物処理法下ではない。綿、化繊、羊毛、羽毛他素材製品を、分別して PE 以外は各指定工場にリサイクル資源として送り込んでいる。羽毛の場合は、回収製品状態のまま指定工場へ送ることが可能です。

高松部長 : 20 年前、カネカ小田原工場でふとんリサイクル実施したが燃料用ペレットにしかならなかった。回収送料負担と再生原料の品質面等の問題があった。北九州工場出荷は PE 樹脂原料か糸か生地なのか、仕様はどうか。

野口 SM : 出来れば加工を出来るだけした状態での出荷としたいので 要相談です。

小山田委員長 : 細部問合せ事項は、直接野口 SM にして頂きたい。

議題 (2)

中村 JBM : 奥谷専務からの アパレルセレクトショップでのシップス RFID タグ導入の繊維ニュース記事、2013 年から店舗で実施し、物流まで 3 ヶ年で拡大し、効果絶大と更なるソリューションに期待大である内容を説明した。東レ瀬尾主任から宿題の「RFID タグの選定基準について」を披露した。検針器対応も必須だが、まずは寝具仕様を総合的に判断する必要がある。

山本課長 : 寝具業界ではリネン用タグ開発で実証等を要するものがある。アパレル業界では店頭重視セレクトショップ、物流重視オンワード、製造重視グンゼ等リーダーカンパニーがあり浸透率が高い。寝具業界では製造分野からのコストもあり兼ね合いが必要となる。タオルにはどうかという面もあるが全商品に付けるべきものなので、JBA 主体としての業界の動きとして取組めばよい。富士通、NCR 等がポスレジタグに強く、印刷はサトーが主導しているので、それぞれと各会員がインレイ含め交渉まとめ、皆でサポートできればよい。東レがインレイ手配をやれば旨いくのではないか。富士通も一本化でき意欲ありでやりたがっている。まず、金谷プランを話して見積頂戴し、富士通、NCR へと流していくのがよいのではないか。

金谷社長 : 中小企業庁全中の補助金公募開始されたが、厚労省からのアドバイスも聞きながら詰めていきましょう。

議題 (3) *巻末 繊維ニュース 1月24日掲載 経産省大臣表彰 ECO タオル

根本委員 : J∞QUALITY タオルについて 12月初旬、内野、ホットマン、小原3社と打合せした。JBA として商品基準(案)を持ち2月初旬、J∞QUALITY 事務局で認証委員選定も含めて協議予定です。また、まくら部会での品質表記統一化にともない J∞QUALITY まくら認証基準(案)を作成した。

中村 JBA : 官民一体の J∞QUALITY も発足3年。寝具も2年経過し、タオル、まくらが加われば全商品ラインナップになり 業界一本化の好機 である。

J∞QUALITY アパレル参加企業では深刻であるが、企業認証受けながら、商品認証品製造に係われないことは認証5年間での課題である。寝具企業認証数91社に対し、商品認証69品番も同様であり、モノ にすべき時期だ。

丸山委員 : まくら(案)では、まだまだ素材面重視傾向がある。製品企画面でのこだわり重視で商品認証する表現をもっと要望する。

議題 (4)

中村 JBA : 福井県消費者センター主催の11月セミナーアンケート88名集計を公表する。

小山田委員長 : 営業現場で話の切り口になる内容と思う。今後集計を重ねていただきたい。

次回委員会は厚労省判断を踏まえ、3月9日(金)午後1時30分開催とする。

2018年(平成30年)1月24日(水)

循環社会へ 古着燃料で走る

環境活動の中心は衣類の循環です。これは社会全体の持続性を支える重要な課題であり、繊維業界も積極的に取り組んでいます。

繊維業界は、古着の回収・リサイクルを通じて、資源の循環を促進し、環境負荷を削減しています。また、古着を燃料として利用する取り組みも進んでいます。

繊維業界は、古着の回収・リサイクルを通じて、資源の循環を促進し、環境負荷を削減しています。また、古着を燃料として利用する取り組みも進んでいます。



岩元 美智彦さん

日本環境設計会長

1964年鹿児島生まれ。繊維商社を経て、2007年に日本環境設計(本社・東京)を共同で創業。著書に「捨てない未来」はこのビジネスから生まれる。

古着を回収し、リサイクルして繊維製品に再利用する取り組みが、繊維業界の持続可能な成長を支えています。また、古着を燃料として利用する取り組みも進んでいます。

繊維業界は、古着の回収・リサイクルを通じて、資源の循環を促進し、環境負荷を削減しています。また、古着を燃料として利用する取り組みも進んでいます。

繊維業界は、古着の回収・リサイクルを通じて、資源の循環を促進し、環境負荷を削減しています。また、古着を燃料として利用する取り組みも進んでいます。

繊維ニュース 2018年(平成30年)1月24日 水曜日

スマイリーアース ものづくり 日本大賞決定 繊維企業で唯一受賞

環境省主催の「スマイリーアース 2017 日本大賞」において、繊維業界で唯一の受賞企業として、スマイリーアースが栄冠を手にした。この賞は、環境に優しい製品を開発し、持続可能な社会の実現に貢献している企業を対象としている。

スマイリーアースは、古着のリサイクル技術を開発し、繊維製品を再生して再利用している。この取り組みは、資源の循環を促進し、環境負荷を削減するのに大きく貢献している。

スマイリーアースは、古着のリサイクル技術を開発し、繊維製品を再生して再利用している。この取り組みは、資源の循環を促進し、環境負荷を削減するのに大きく貢献している。